

〒107-0062 東京都港区南青山二丁目7-29

<https://www.jtb.or.jp/>

2020年7月30日

コロナ禍における観光動向に関する各種調査の結果を公表

公益財団法人日本交通公社（会長 末永安生）は、コロナ禍における観光動向に関する各種調査を実施し、分析結果を順次公表してきました。ここでは、公表中及び公表予定の各種調査・研究をご案内するとともに、最新の「コロナ禍における日本人の旅行意識調査」から明らかになったことをご紹介します。

当財団が行ったコロナ禍における観光動向に関する各種調査

(1) コロナ対応ロードマップ／ガイドライン事例

2020年5月までに公表された諸外国における各種行動制限の緩和方針（ロードマップ）、宿泊施設や会議・イベント（MICE）分野の感染拡大防止のための各種対策指針（ガイドライン）を整理しました。

アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、韓国のロードマップには、3～4段階のフェーズ毎の緩和内容が示されています。

宿泊施設のガイドラインの中でも、アメリカの大手ホテルチェーンでは新たな技術導入（非接触技術等）が推進されていました。会議・イベント（MICE）分野のガイドラインでは、国際機関による5つの視点や、韓国の展示会での具体例をとりまとめました。

詳細は、<https://www.jtb.or.jp/research/data/covid-19-guideline/>

(2) 海外の観光地におけるコロナ対策～海外研究者からの情報提供より～

緊急事態宣言下、当財団と交流のある諸外国の観光研究者に対するヒアリング調査を実施し、現地のコロナ対策の状況を取りまとめました。

ほとんどの国では、日本より厳しい制限が経済活動等に向けられるとともに、各種の融資や雇用維持のための補償、短期就業への支援が公的に実施されていました。また、DMOがポストコロナ期の行動計画を検討中の国もありました。

観光研究者からは、コロナ禍の影響はやや長期化する、近距離の旅行が主流になる、まずは地元の人々が外で生活を楽しめなければ旅行者の訪問には繋がらない、という意見が聞かれました。

詳細は、<https://www.jtb.or.jp/research/data/covid-19-world-destinations/>

(3) 新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向

定期的実施する「JTBF 旅行実態調査」及び「JTBF 旅行意識調査」に新型コロナウイルス感染症に関する設問を加え、分析結果を「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その1～4）」として順次公表しました。

1月から3月にかけて次第に旅行の中止・延期の割合が高まったこと（その1）、若年層ほど感染症流行に早期から敏感に対応したこと（その2）、4～6月の旅行実施予定率は1%台にとどまったこと（その3）が分かりました。

その4では、収束後の旅行に対する意識の分析を試み、国内旅行は前向きに検討されているものの海外旅行は控える傾向にあること、旅行動機や行ってみたい旅行タイプはこれまでと変わりはないものの

消費者の旅行行動は注意深くなることが分かりました。次ページから結果の一部を抜粋して紹介します。なお、8月中旬には、その5（観光地に対する支援意向などの分析結果）を公開予定です。

詳細は、<https://www.jtb.or.jp/research/theme/statistics/statistics-tourist/>

***「JTBF 旅行実態調査 2020（第1四半期）」調査概要（その1～3として公表）**

- 調査方法：ウェブ調査
- 調査期間：2020年5月1日～5月11日

【全体調査】

- 調査対象：全国16～79歳の男女（調査会社のパネルより抽出）
- 標本の大きさ：50,000人

【トリップ調査】

- 調査対象：全国16～79歳の男女で、期間中に観光・レクリエーション旅行を実施した人（調査会社のパネルより抽出）
- 調査の対象とした旅行期間：2020年1～3月
- 標本の大きさ：国内宿泊観光・レクリエーション旅行 1,451人、海外観光・レクリエーション旅行 1,000人
- 集計対象としたトリップ数：国内宿泊観光・レクリエーション旅行 2,080件、海外観光・レクリエーション旅行 1,089件

(4)『観光文化 246号』（2020年8月7日発行予定）

特集「現場で語る、持続可能な観光の本質～コロナ禍での現状と課題～」と題して、北海道の観光事業者やDMO、温泉旅館などの関係者らとのオンラインでの議論の内容をとりまとめました。その中では、コロナ禍における来訪者の状況、観光事業者を取りまく状況、地元住民の観光に対するまなざしなどが現場目線で語られました。

また、観光研究最前線として「諸外国におけるCOVID-19対応ガイドラインー2020年4～5月の状況」「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向」を掲載しています。

詳細は、<https://www.jtb.or.jp/publication-symposium/book/>

新型コロナウイルス感染症流行下の旅行者意識に関する主な調査結果

～「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その4）」より

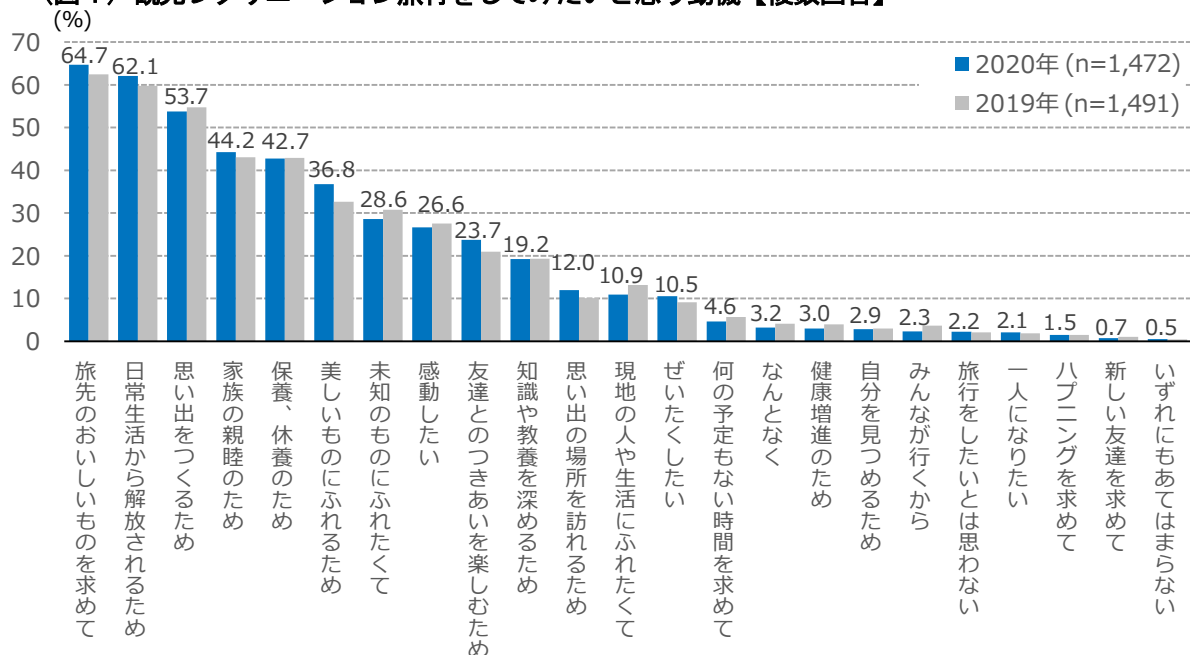
旅行の動機

～コロナ禍においても大きな変動なく、「旅先のおいしいもの」「日常生活からの解放」が2大動機～

最も回答の多い動機は「旅先のおいしいものを求めて」、次いで「日常生活から解放されるため」で、全体の6割以上を占めます。3～5位には「思い出を作るため」、「家族の親睦のため」、「保養、休養のため」が4～5割で続きます。これらの順位及び割合は、前年からほぼ変動はありませんでした。

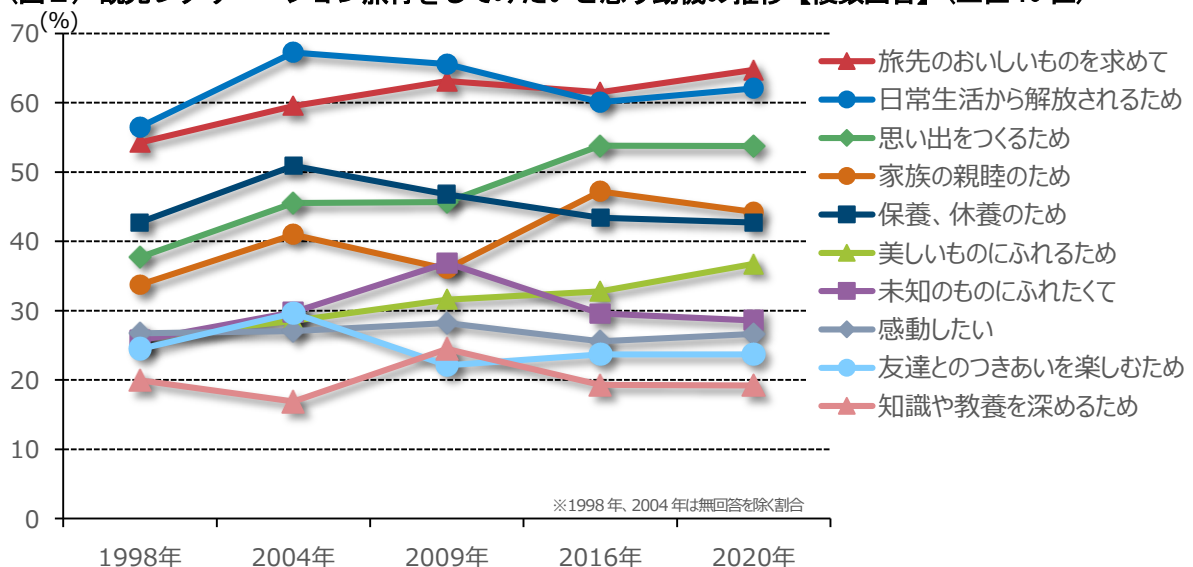
中長期的なトレンドをみても上位の項目に大きな変動はなく、感染症流行に関わらず、これらは多くの人々が旅行に求める普遍的な動機となっています。

（図1）観光レクリエーション旅行をしてみたいと思う動機【複数回答】



出典：「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その4）」

（図2）観光レクリエーション旅行をしてみたいと思う動機の推移【複数回答】（上位10位）



出典：「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その4）」

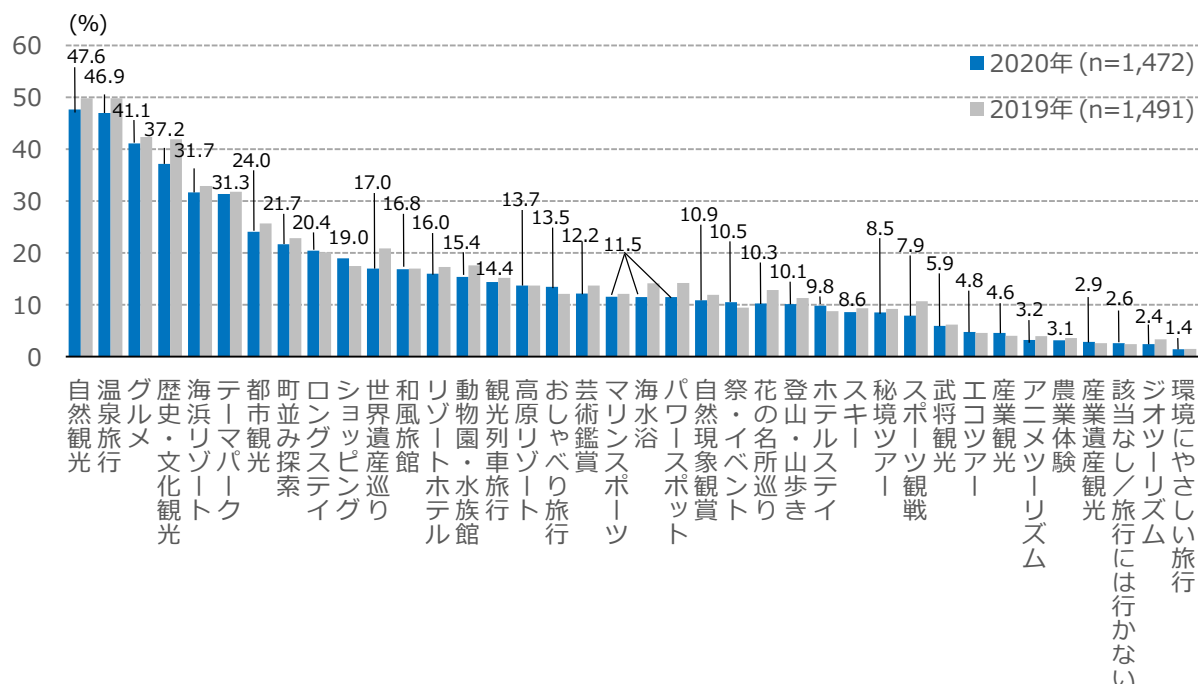
行ってみたい旅行タイプ

～コロナ禍においても大きな変動なく、「自然観光」「温泉旅行」が人気～

行ってみたい旅行タイプの TOP は「自然観光」であり、次いで「温泉旅行」で、これらは全体の 5 割弱を占め、以下、「グルメ」、「歴史・文化観光」、「海浜リゾート」と続きます。これらの順位及び割合は、前年からほぼ変動はありませんでした。

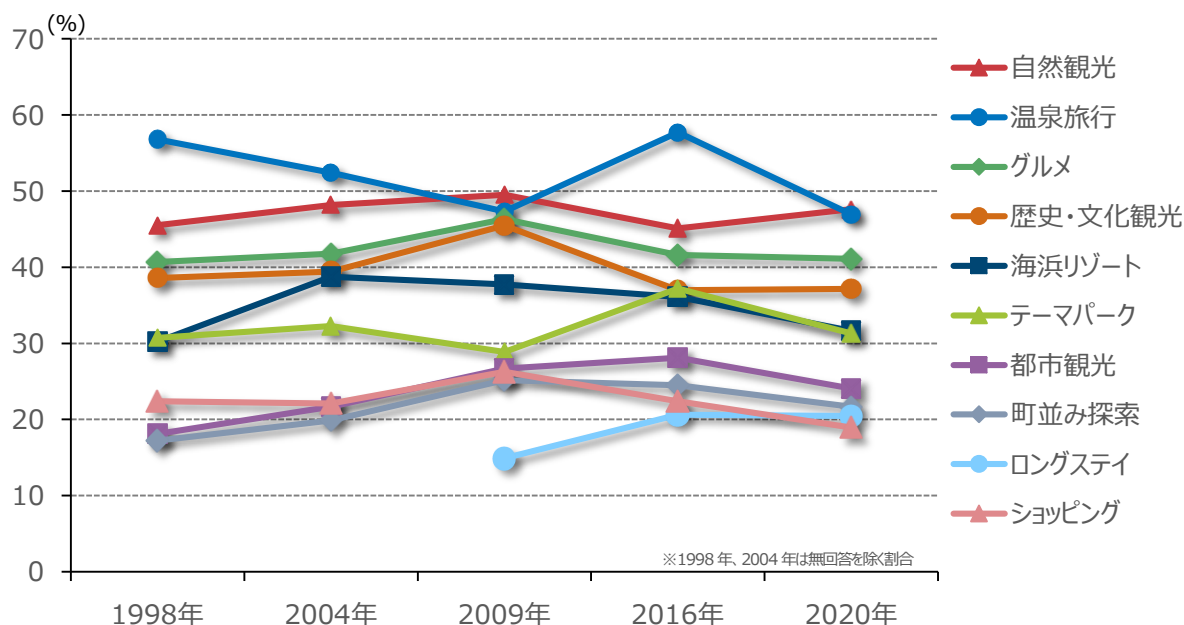
中長期的なトレンドをみても上位の項目に大きな変動はなく、これらは感染症流行の影響を受けず人気の高い旅行タイプとなっています。感染症流行により野外の活動が注目されていますが、「自然観光」はこの 20 年間、常に人気の旅行タイプでした。

（図 3）今後 1～2 年間で行ってみたい旅行タイプ【複数回答】



出典：「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その4）」

（図 4）今後 1～2 年間で行ってみたい旅行タイプの推移【複数回答】（上位 10 位）



出典：「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その4）」

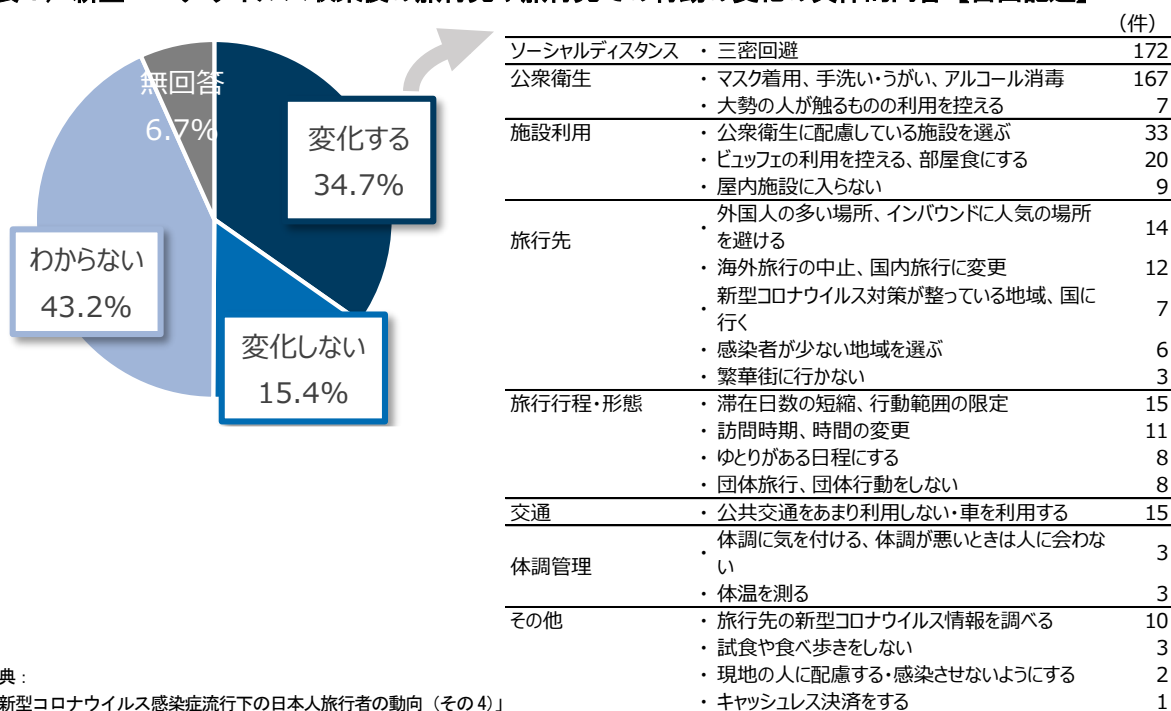
新型コロナウイルス感染症流行による旅行先や旅行行動の変化 ～約 3 割が「変化する」と回答～

新型コロナウイルスの流行により収束後の旅行が変化するかを尋ねると、「変化する」が 34.7%、「変化しない」が 15.4%、「わからない」が 43.2%でした。約半数が変化について図りかねているものの、残りの半数は何らかの変化の有無を想定しています。

さらに、「変化する」と答えた人に変化の具体的な内容を尋ねると、351 人から回答が得られました。その記述内容は、「三密回避」に関するもの 172 件、「マスク着用など公衆衛生」に関するもの 167 件と、多くの人が基本的な感染予防策を意識しています。

（図 5）新型コロナウイルス流行が収束後の旅行先や旅行行動に与える変化【単一回答】

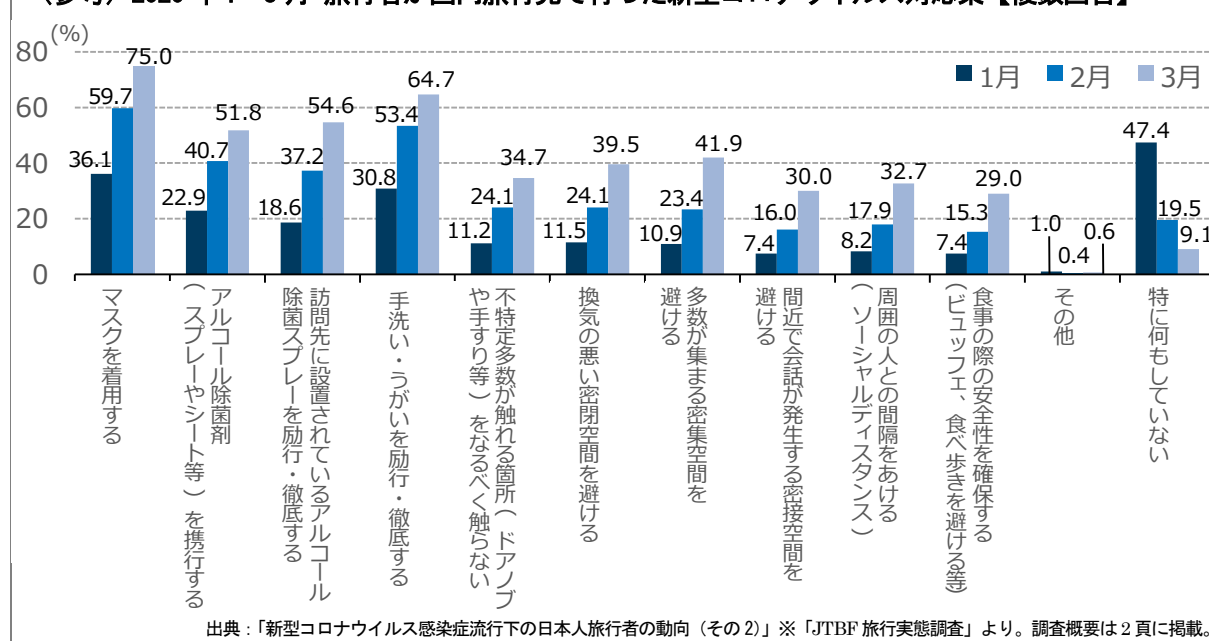
（表 1）新型コロナウイルス収束後の旅行先や旅行先での行動の変化の具体的内容【自由記述】



出典：

「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その 4）」

（参考）2020 年 1～3 月 旅行者が国内旅行先で行った新型コロナウイルス対応策【複数回答】



出典：「新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その 2）」※「JTBF 旅行実態調査」より。調査概要は 2 頁に掲載。

<総括>

～コロナ禍においても旅行に対する基本的な欲求は変わらず、個別の行動には変化あり～

「旅行の動機」「行ってみたい旅行タイプ」は、「なぜ旅行に行きたいか」「旅行に何を求めるか」「どのような旅行に行きたいか」という旅行に対する潜在的な意識、基本的な欲求に関わる部分です。約20年間の推移や前年との比較をみる限り、コロナ禍においてもこれらは基本的には変わっていません。

一方で、新型コロナウイルス収束後、約3割の人が旅行行動を「変化する」と回答しました。具体的な変化の内容としては、基本的な感染予防策が多数挙げられ、実際に2020年1～3月の旅行でも、マスク着用やアルコール除菌などの公衆衛生、三密回避、食事の際の安全性確保などの対策が取られました。これらのことから、個別の旅行行動は、感染症流行の影響を直接的に受けて変化すると考えられます。

<調査概要>

- 調査名：JTBF 旅行意識調査 2020
- 調査方法：郵送自記式調査
- 調査期間：2020年5月20日～6月5日
- 調査対象：全国18～79歳の男女（調査会社のパネルより抽出）
- 標本の大きさ：1,472人
- 回答者属性：

	男性								女性								合計
年齢 (歳)	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	計	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	計	
標本の 大きさ (人)	34	91	113	150	120	137	100	745	22	78	111	127	116	149	124	727	1,472
構成比 (%)	2.3	6.2	7.7	10.2	8.2	9.3	6.8	50.6	1.5	5.3	7.5	8.6	7.9	10.1	8.4	49.4	100.0

当調査結果についての詳細は、当財団のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jtb.or.jp/research/theme/statistics/statistics-tourist/covid-19-japanese-tourists-4/>

公益財団法人日本交通公社は「観光文化の振興」に取り組む実践的学術研究機関として、
観光を通じた豊かな社会の実現に貢献します。

【お問い合わせ先】 観光文化情報センター 吉澤・門脇
TEL : 03-5770-8360 Email : zaidan_info@jtb.or.jp

Japan Travel Bureau Foundation